

(活動報告書様式)

団体名	飯豊史話会		
事業名	常福院 不動明王像三尊像の修復を通して地域へ文化財の価値を伝える事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【テーマ：うまい！を明日へ！郷土が誇る最上川と伝統文化保護・保全事業】		
団体の 所在市町村	飯豊町	事業費	500,098 円
		うち助成金額	500,000 円



■事業目的

飯豊町は全国的にも有名な散居集落の景観を有する領域である。現在飯豊町は人口減少により 2040 年に消滅する町とされている。今後若い世代の定住、外部からの移住が課題となる。散居集落には貴重な文化財が存在している。当会は文化財を保護し、その成果を発信することで、当地の文化財を次世代に伝える意識を醸成してもらい、魅力的な地域づくりに結び付け、住みよい地域社会を実現することを目指している。本事業は常福院不動明王三尊像の修復を通して文化財を次世代に伝える意義を広く伝えることで住みよい地域社会の実現を目的とした。

■実施内容

飯豊町添川、常福院の不動明王三尊像は室町末期の作で全高180cmに及ぶ巨像である。出羽三山信仰の拠点、大日寺の尊像だったが神

仏分離を機に当地に譲渡された経緯をもち、優れた仏像として県の有形文化財に指定されている。本像は経年劣化に加え、足ホゾや台座の構造損傷が著しく、自立が不安定な状態にあった。それが東日本大震災で転倒し深刻な破損を受けた。平成 29 年 10 月 28 日から 30 日までの3日間、不動明王三尊像の自立性を回復する応急的修復を実施し、これを公開する見学会を開催した。作業は常福院で実施。2 日目には像の歴史的、科学的調査を踏まえた講演会を開催。本事業は、郷土史の会「飯豊史話会」が中心となり、行政・所有者・修復者と協働して事業展開した。このような協働の取り組みは、地域社会における新たな文化財保護のシステムを試験的に実施することにもなった。

■事業成果及び今後の展望

①事業の成果

不動明王三尊像の自立性の回復に成功し、公開修復と講演会に計 133 人の方に参加してもらったことができた。

内飯豊町民が 111 人、置賜 13 人、その他 9 人、横浜からの参加もあった。約 50 人が地元の小学生で、未来に文化財を伝える種を地域に植えることができたと考える。興味をもった見学者が多かったことから地域住民の文化財への知識と意識を高め、文化財を次世代へ継承する意識を醸成するきっかけにできたと判断する。

②今後の展望

本像の完全な修復には総額 340 万円必要となる。今後も常福院・町教育委員会と協働して当地域の宝である文化財の三尊像の修復を進めていく。また今回の公開修復によって得られたノウハウを参考に、常福院と史話会が協働しながら三尊像の情報を広く発信し、飯豊町・山形県にとって価値のある文化財を次世代に伝承する活動を進めていきたい。